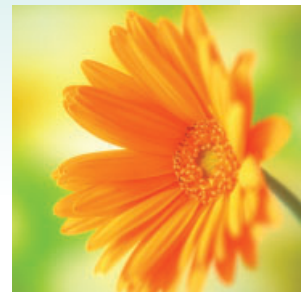
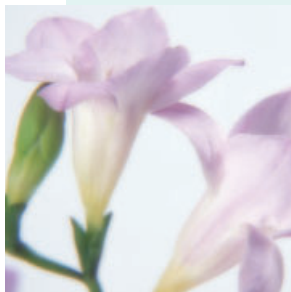


株主の皆様へ

第10期 中間報告書
平成20年1月1日 ▶ 平成20年6月30日



アンジェス MG株式会社



『「コラテジェン」(HGF遺伝子治療薬)を国内で製造販売承認申請』

Q この半年間を振り返って、プロジェクトごとの進捗状況をお伺いしたいと思います。虚血性疾患治療剤「コラテジェン」(HGF遺伝子治療薬)について教えていただけますでしょうか。

A 平成20年3月に、重症虚血肢を有する閉塞性動脈硬化症及びバージャー病を適応症として、国内で製造販売承認申請をいたしました。「コラテジェン」(HGF遺伝子治療薬)は、従来の薬物とは異なる新しい作用機序を有する薬剤で、従来の薬物療法で効果が不十分な患者様、手術の施行が困難な患者様等に効果が期待されております。

HGF遺伝子治療薬は、国内の大学の研究成果に基づく国産遺伝子治療薬で、日本での開発が先行してきました。当社グループは、昨年6月の重症虚血肢を有する閉塞性動脈硬化症患者を対象とした国内第Ⅲ相臨床試験の良好な中間解析結果を受けて、承認申請の準備を進め、国内で初めて遺伝子治療薬の製造販売承認申請をいたしました。当社グループとしては、国内外の患者様に一日でも早く本剤をお届けできるよう努めてまいります。

代表取締役社長 山田 英

Q 「コラテジェン」の名前の由来は何ですか。

A 血管新生により側副血行路（“collateral vessels”）を形成し、虚血状態の改善を図る遺伝子治療薬（“gene medicine”）という意味を込めています。

Q 米国での開発の進捗はいかがですか。

A 米国における末梢性血管疾患を対象とした開発については、平成20年6月、米国食品医薬品局（FDA）との間で、End of Phase II meetingを開催しており、現在は第Ⅲ相臨床試験の準備を進めています。

Q 新しく発売されたムコ多糖症Ⅵ型治療薬について教えてください。

A ムコ多糖症Ⅵ型治療薬「ナグラザイム」は、当社グループが米国のバイオマリン ファーマシューティカル社（BioMarin Pharmaceutical Inc.）から日本における開発及び販売権を取得した医薬品で、国内での製造販売承認を平成20年3月に取得し、同年4月に新発売いたしました。本剤は、当社グループにとりまして、自社販売する初めての製品です。厚生労働省からは希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）に指定されております。

ナグラザイムは、ムコ多糖症Ⅵ型患者で欠損している酵素を外部から補う、いわゆる補充療法として開発された薬剤です。ムコ多糖症Ⅵ型に対する従来の治療法としては、骨髄移植術がありますが、ドナー確保の問題や移植に伴うリスクがあり、より安全で有効な治療法が求められておりました。そのよ

うな中での今回の発売は、当社としても非常にうれしく思っております。今回の発売により、日本ムコ多糖症親の会の皆様のご訪問を受け、感謝状をいただきましたが、当社グループの担う社会的意義を改めて強く感じ、身の引き締まる思いがいたしました。

Q 次にNF- κ Bデコイオリゴの進捗状況について教えてください。

A アトピー性皮膚炎を対象とするNF- κ Bデコイオリゴ軟膏の国内第Ⅱ相臨床試験については、いくつかの評価指標で有効性を示唆する結果が得られました。安全性については、副作用の発生頻度でプラセボ群と差はありませんでした。現在は、同試験結果に基づき、第Ⅲ相臨床試験の実施を検討しております。

Q 最後に株主の皆様へ一言お願いいたします。

A 当中間期は、医薬品の発売という新たなステージを迎えました。小さいながらも大きな一歩です。しかしながら、当社グループの主要プロジェクトは、引き続き、保有する自社医薬品開発を行う先行投資の段階にあり、当中間期における連結業績についても、事業収益5億6百万円、営業損失16億51百万円、経常損失15億20百万円、中間純損失15億70百万円という状況でございます。

医薬品の開発には長い時間がかかり、株主の皆様にも、そして我々の医薬品を心待ちにしている患者様にも、ご心配をおかけしているところです。一日も早く当社開発の遺伝子治療薬を上市するために、これからも全社一丸となって頑張ってもらいますので、引き続き、ご指導、ご鞭撻くださいますようお願いいたします。

当社グループでは以下のプロジェクトを中心に研究開発を行っております。開発リスクの分散を図るため、他企業の開発品の導入も行き、パイプライン（開発品目）の充実を図っております。

開発パイプラインの状況

医薬品開発の状況

(2008年8月現在)

自社品

プロジェクト	対象疾患	地域	前臨床	第I相	第II相	第III相	申請	承認	提携先
「コラテジェン」 (HGF 遺伝子治療薬)	末梢性血管疾患	日本	→						第一三共株式会社
		米国	→						
	虚血性心疾患	日本	→						
		米国	→						
パーキンソン病		→						未定	
NF-κB デコイオリゴ	アトピー性皮膚炎	日本	→						アルフレッサ ファーマ株式会社
		欧米	→						マイヤー ファーマシューティカルズ社 (米)
	整形外科疾患	欧米	→						
	呼吸器疾患	欧米	→						
	炎症性腸疾患	欧米	→						
	乾癬	米国	→						アヴォンテック社(独)
		欧州	→						
血管再狭窄予防		→						メディキット株式会社 株式会社ホソカワ粉体技術研究所	

提携開発品

プロジェクト [開発企業]	対象疾患	地域	前臨床	第I相	第II相	第III相	申請	承認	上市	当社の権利
ナグラザイム [当社]	ムコ多糖症Ⅵ型	日本	→							日本の開発、販売権
Allovetin-7 [バイカル社(米)]	メラノーマ	米国	→							米国等売上高に対する ロイヤリティ受取権、 アジアの開発販売権
STAT-1デコイオリゴ [アヴォンテック社(独)]	喘息	欧州	→							アジア地域の製造、開発、販売権
	乾癬	欧州	→							アジア地域の製造、開発、販売権

HVJ-E非ウイルス性ベクターの開発状況

研究用試薬	遺伝子機能解析用キット「GenomONE」及び「GenomOne-CF」が開発され、提携先の石原産業株式会社から発売されています。
遺伝子探索研究	株式会社ファルコバイオシステムズと共同で、生活習慣病など特定の分野の診断に利用できる遺伝子検査法の開発を進めています。
医薬品開発	癌免疫療法剤としての研究開発を行っています。

1 「コラテジェン」(HGF遺伝子治療薬)

血管が詰まり血流が悪くなっている虚血性疾患に対して、血管を新生するというこれまでにない治療薬を目指し、HGF^{※1}遺伝子治療薬の開発を進めております。

血管が詰まることにより生じる病気には、末梢性血管疾患^{※2}や、虚血性心疾患^{※3}があります。手術ではなくHGF遺伝子を注射で患部に注入するという簡便な方法で血管を新生させ、詰まった部分をバイパスして新しい血流をつくり、虚血を改善することを目指しております。

【開発状況】

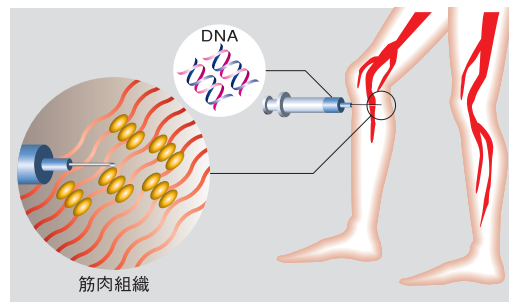
末梢性血管疾患領域において、国内で承認申請中、米国で第Ⅲ相臨床試験の準備を進めています。

虚血性心疾患領域においては、第Ⅰ相臨床試験の段階にあります。

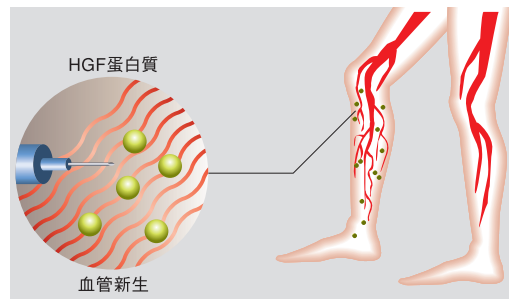
【提携状況】

末梢性血管疾患及び虚血性心疾患領域については、第一三株式会社と販売提携しております。

注射によるHGF遺伝子治療（末梢性血管疾患）



遺伝子治療前



遺伝子治療後

用語解説

※1 肝細胞増殖因子 (Hepatocyte Growth Factor)

肝細胞から発見された増殖因子で、血管新生作用を有するほか、器官形成や傷害に伴う組織・器官の再生において重要な役割を担います。

※2 末梢性血管疾患 (Peripheral Arterial Disease)

四肢の末梢血管が閉塞することにより下肢が虚血状態に陥り、しびれ、冷感、間歇性跛行、安静時疼痛、下肢潰瘍などの症状を示す閉塞性動脈硬化症やバージャー病があります。

※3 虚血性心疾患 (Ischemic Heart Disease)

心臓を養う動脈(冠動脈)がある程度狭窄することにより心臓に十分な血液が流れず、胸苦しさや胸痛などの症状を示す狭心症や、冠動脈が完全に閉塞し心筋組織が虚血状態になる心筋梗塞があります。

2 NF- κ Bデコイオリゴ

NF- κ BデコイオリゴはNF- κ Bによる過剰な免疫反応を原因とする病気を治療することが期待されています。

NF- κ Bとは免疫及び炎症反応を強める遺伝子のスイッチ役を担う転写因子で、アレルギー疾患及び自己免疫疾患の発症に重要な役割を果たしていると考えられています。

NF- κ Bという鍵がゲノムという鍵穴と結合する前に、デコイ（おとり）を使って、鍵穴に鍵が入るのを防ぐわけです。NF- κ BデコイオリゴはNF- κ Bと結合してその働きをブロックします。

対象となる病気には、アトピー性皮膚炎、乾癬、関節リウマチなどがあります。これらの病気では、免疫反応を強める遺伝子が過剰に働いており、NF- κ Bデコイオリゴによって遺伝子の発現を調節することで、病気の治療を期待することができます。

【開発状況】

国内においてアトピー性皮膚炎領域を対象とした第Ⅱ相臨床試験の段階にあります。

【提携状況】

アトピー性皮膚炎領域についてはアルフレッサファーマ株式会社と国内で共同開発を進めています。

血管再狭窄予防領域においてはメディキット株式会社及び株式会社ホソカワ粉体技術研究所と共同探索研究を行っています。

また、北米及び欧州については、アトピー性皮膚炎等に対する開発販売権をマイヤーファーマシューティカルズ社に許諾しています。

3 HVJ-E非ウイルス性ベクター

HVJ（Hemagglutinating Virus of Japan、別名センダイウイルス）の中のゲノムを全て除去し、膜のみを用いるベクターがHVJエンベロープベクター（以下、HVJ-E非ウイルス性ベクター）です。

HVJ-E非ウイルス性ベクターは、膜に細胞を融合（細胞融合）する作用があることから、遺伝子等の物質を細胞に導入する効率が高く、しかもウイルスゲノムが全て除去されているため、ヒトに対する安全性も高いベクターです。

【開発状況】

癌免疫療法剤として医薬品分野に応用する研究開発を実施しております。

【提携状況】

HVJ-E非ウイルス性ベクターの遺伝子機能解析用キットを主とする関連製品に関する全世界独占の実施権を石原産業株式会社に許諾しており、同社からHVJ-E非ウイルス性ベクターと補助剤をキット化した「GenomONE」等が発売されております。

また、株式会社ファルコバイオシステムズとの間で、新規疾患関連遺伝子を用いた遺伝子検査法の開発に関して共同事業を進めています。

ナグラザイムの特徴

What's Naglazyme

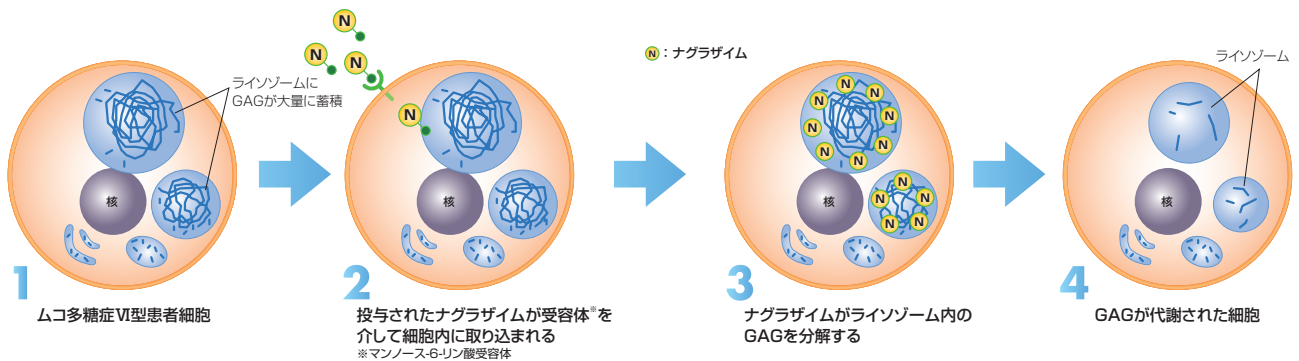
Naglazyme®
(GALSULFASE)



遺伝子組換えムコ多糖症VI型治療剤
ナグラザイム点滴静注液 5mg

- 1 ナグラザイムは、ムコ多糖症VI型（マロトー・ラミー症候群）の治療薬として世界で初めて承認を受けた酵素補充療法剤で、ムコ多糖症VI型患者に欠損している酵素アリルスルファターゼ Bを、BioMarin Pharmaceutical Inc.が遺伝子組換え技術により製造し、開発された医薬品です。欧米における臨床試験において、安全性及び歩行能力の改善等の有効性が確認されています。
- 2 ムコ多糖症VI型は、アリルスルファターゼ Bという酵素の先天的な欠損によりライソゾーム内にグリコサミノグリカン(GAG)が蓄積し、細胞、組織、臓器系統に進行性の機能不全を引き起こします。
- 3 ムコ多糖症VI型は、現在、国内で確認されている患者数が数名という極めて希な疾患です。生後1年程度から関節の運動制限や骨変形が認められ、肝脾腫、角膜混濁、聴力障害、心弁膜障害等の種々の症状を呈する進行性の疾患です。従来の治療法としては骨髄移植術がありますが、ドナー確保の問題や移植に伴うリスクのため、より安全で有効な治療法が求められていました。
- 4 当社にとっては、ナグラザイムが製造販売承認を取得した初めての製品になります。

●ナグラザイムの作用メカニズム



中間連結財務諸表

● 中間連結貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科 目	前中間期 (平成19年6月30日現在)	当中間期 (平成20年6月30日現在)	前 期 (平成19年12月31日現在)
資産の部			
1 流動資産	12,549,487	9,993,992	11,471,045
固定資産	1,876,804	1,868,166	1,711,377
有形固定資産	130,352	108,531	111,823
無形固定資産	402,274	302,523	389,690
投資その他の資産	1,344,178	1,457,112	1,209,862
資産合計	14,426,292	11,862,159	13,182,423
負債の部			
流動負債	1,192,451	1,285,472	876,895
2 負債合計	1,192,451	1,285,472	876,895
純資産の部			
株主資本	13,214,201	10,935,406	12,486,608
資本金	9,411,460	9,448,618	9,439,094
資本剰余金	7,722,202	7,759,361	7,749,837
利益剰余金	△ 3,919,461	△ 6,272,572	△ 4,702,323
評価・換算差額等	△ 57,997	△ 397,138	△ 229,451
その他有価証券評価差額金	△ 62,971	△ 384,834	△ 225,219
為替換算調整勘定	4,973	△ 12,303	△ 4,231
新株予約権	9,261	38,418	18,474
少数株主持分	68,375	—	29,896
3 純資産合計	13,233,841	10,576,687	12,305,527
負債純資産合計	14,426,292	11,862,159	13,182,423

POINT1 【流動資産】

研究開発投資やバイカル インクへの出資及び同社への開発協力金の支払により、現金及び預金等が7億39百万円減少しております。

POINT2 【負債】

有価証券の購入等により、未払金が5億9百万円増加しています。

POINT3 【純資産】

ストック・オプションの行使により資本金及び資本剰余金はそれぞれ9百万円増加しております。

POINT4 【事業収益】

提携先からの開発協力金等の減少により、事業収益は前年同期比28.8%減となりました。当中間期より「ナグラザイム」の販売を開始し、当社としては初めての医薬品販売による事業収益が計上されております。

POINT5 【経常損失】

バイカル インクの開発の進展による研究開発費の増加、補助金収入の減少等により、前年同期より赤字幅は5億85百万円拡大しております。

POINT6 【税金等調整前中間純損失】

経常損失の拡大に加えて、子会社であるジェノミディア株式会社に関連したのれん償却額を特別損失に計上したこと等により、前年同期に比べて6億42百万円赤字幅が拡大しております。

POINT7 【営業CF】

税金等調整前中間純損失が15億93百万円となったこと等により、営業活動の結果使用した資金は前年同期に比べて2億47百万円支出が増加しております。

POINT8 【投資CF】

有価証券の取得による支出15億1百万円、有価証券の償還による収入24億円等を計上しております。また、バイカル インクに対して4億22百万円を追加出資しております。

● 中間連結損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	(自平成19年1月1日 至平成19年6月30日)	(自平成20年1月1日 至平成20年6月30日)	(自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)
4 事業収益	711,271	506,201	1,720,098
事業費用	1,827,665	2,157,766	3,759,843
売上原価	—	11,574	—
研究開発費	1,532,401	1,806,243	3,147,011
販売費及び一般管理費	295,263	339,948	612,831
営業損失	1,116,394	1,651,564	2,039,744
営業外収益	233,648	159,216	375,026
営業外費用	51,311	27,674	66,094
5 経常損失	934,056	1,520,022	1,730,813
特別損失	17,240	73,519	35,287
6 税金等調整前中間(当期)純損失	951,297	1,593,542	1,766,100
法人税、住民税及び事業税	7,410	6,603	12,665
少数株主損失	13,120	29,896	50,315
中間(当期)純損失	945,588	1,570,248	1,728,450

● 中間連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	(自平成19年1月1日 至平成19年6月30日)	(自平成20年1月1日 至平成20年6月30日)	(自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)
7 営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 906,453	△ 1,153,625	△ 1,976,242
8 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,652,903	716,405	△ 3,668,456
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,392,220	18,334	7,446,496
現金及び現金同等物に係る換算差額	12,391	△ 20,286	△ 4,029
現金及び現金同等物の増加額(△は減少)	3,845,254	△ 439,171	1,797,768
現金及び現金同等物の期首残高	4,478,255	6,276,024	4,478,255
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	8,323,510	5,836,853	6,276,024

● 中間連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

当中間期 (自平成20年1月1日 至平成20年6月30日)

	株主資本				評価・換算差額等			新株予約権	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
平成19年12月31日残高	9,439,094	7,749,837	△ 4,702,323	12,486,608	△ 225,219	△ 4,231	△ 229,451	18,474	29,896	12,305,527
中間連結会計期間中の変動額										
新株の発行(新株予約権等の行使)	9,523	9,523		19,047						19,047
中間純損失			△ 1,570,248	△ 1,570,248						△ 1,570,248
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)				—	△ 159,615	△ 8,071	△ 167,686	19,944	△ 29,896	△ 177,639
中間連結会計期間中の変動額合計	9,523	9,523	△ 1,570,248	△ 1,551,201	△ 159,615	△ 8,071	△ 167,686	19,944	△ 29,896	△ 1,728,840
平成20年6月30日残高	9,448,618	7,759,361	△ 6,272,572	10,935,406	△ 384,834	△ 12,303	△ 397,138	38,418	—	10,576,687

中間単体決算の概要

Non-Consolidated Financial Statements

● 中間貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	(平成19年6月30日現在)	(平成20年6月30日現在)	(平成19年12月31日現在)
資産の部			
流動資産	12,307,127	9,690,560	11,340,725
固定資産	2,225,030	1,840,884	2,072,400
有形固定資産	91,069	75,603	76,685
無形固定資産	272,394	248,756	256,078
投資その他の資産	1,861,566	1,516,523	1,739,636
資産合計	14,532,157	11,531,444	13,413,125
負債の部			
流動負債	1,218,195	1,291,300	886,531
負債合計	1,218,195	1,291,300	886,531
純資産の部			
株主資本	13,367,671	10,586,560	12,733,339
資本金	9,411,460	9,448,618	9,439,094
資本剰余金	7,722,202	7,759,361	7,749,837
利益剰余金	△ 3,765,991	△ 6,621,419	△ 4,455,592
評価・換算差額等	△ 62,971	△ 384,834	△ 225,219
その他有価証券評価差額金	△ 62,971	△ 384,834	△ 225,219
新株予約権	9,261	38,418	18,474
純資産合計	13,313,961	10,240,143	12,526,594
負債純資産合計	14,532,157	11,531,444	13,413,125

● 中間損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	(自平成19年1月1日 至平成19年6月30日)	(自平成20年1月1日 至平成20年6月30日)	(自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)
事業収益	672,328	504,823	1,679,801
事業費用	1,678,296	1,962,314	3,483,633
売上原価	—	11,574	—
研究開発費	1,400,077	1,634,368	2,909,536
販売費及び一般管理費	278,218	316,371	574,096
営業損失	1,005,967	1,457,491	1,803,832
営業外収益	84,249	91,102	226,889
営業外費用	50,212	25,624	64,823
経常損失	971,930	1,392,013	1,641,766
特別損失	17,240	770,908	34,100
税引前中間(当期)純損失	989,171	2,162,921	1,675,867
法人税、住民税及び事業税	2,905	2,905	5,810
中間(当期)純損失	992,076	2,165,826	1,681,677

● 中間株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	当中間期 (自平成20年1月1日 至平成20年6月30日)						
	株主資本				評価・換算差額等	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金 その他利益剰余金 繰越利益剰余金	株主資本合計			
平成19年12月31日残高	9,439,094	7,749,837	△ 4,455,592	12,733,339	△ 225,219	18,474	12,526,594
中間会計期間中の変動額							
新株の発行(新株予約権等の行使)	9,523	9,523		19,047			19,047
中間純損失			△ 2,165,826	△ 2,165,826			△ 2,165,826
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額(純額)				—	△ 159,615	19,944	△ 139,670
中間会計期間中の変動額合計	9,523	9,523	△ 2,165,826	△ 2,146,779	△ 159,615	19,944	△ 2,286,450
平成20年6月30日残高	9,448,618	7,759,361	△ 6,621,419	10,586,560	△ 384,834	38,418	10,240,143

会社概要 (平成20年6月30日現在)

Corporate Data

会社名：アンジェス MG株式会社
 (英文名：AnGes MG, Inc.)
 会社設立：平成11年12月
 決算期：12月31日
 資本金：9,448百万円
 従業員数：69名

■事業所

■本社

〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ七丁目7番15号
 彩都バイオインキュベータ4階

■彩都研究所

〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ七丁目7番15号
 彩都バイオインキュベータ4階

■東京支社

〒108-0014 東京都港区芝五丁目20番14号 三田鈴木ビル5階

■役員

取締役会長	榎	史	朗
代表取締役社長	山	田	英
取締役	中	本	浩
取締役	玄	番	岳
取締役	森	下	竜
取締役	北	里	一
常勤監査役	池	田	勉
監査役	遠	山	伸
監査役	菱	田	忠

■アンジェス MGグループ

会社名	資本金 主要な事業内容	当社議決権比率
アンジェス インク	100千米ドル 米国での遺伝子医薬品の臨床開発	100.0%
アンジェス ユーロ リミテッド	50千英ポンド 欧州での遺伝子医薬品の臨床開発	100.0%
ジェノメディア 株式会社	348,250千円 癌免疫療法剤の研究開発、新規有用 遺伝子及び分子の探索、遺伝子機能 解析	72.3%

株式の状況 (平成20年6月30日現在)

Stock Information

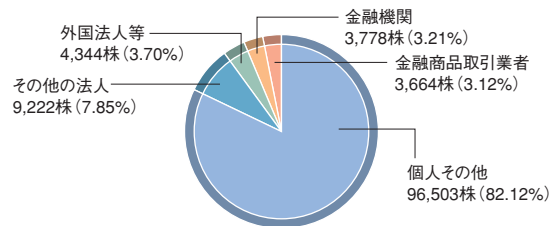
発行可能株式総数 370,464株
 発行済株式の総数 117,511株
 株主数 19,481名

■大株主の状況

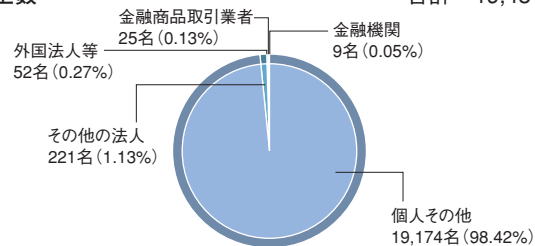
株主名	持株数	議決権比率
森下 竜一	12,170株	10.35%
中村 敏一	7,000株	5.95%
有限会社イー・シー・エス	3,925株	3.34%
森下 翔太	2,400株	2.04%
森下 真弓	2,200株	1.87%
バイオフロンティア・グローバル投資事業組合	2,130株	1.81%
小谷 均	1,861株	1.58%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	1,630株	1.38%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,517株	1.29%
富田 憲介	1,503株	1.27%

■所有区別別 株式分布状況

株式数 合計 117,511株



株主数 合計 19,481名



株主メモ

- 事業年度 1月1日から12月31日まで
- 定時株主総会 3月中
- 基準日 12月31日(期末配当金)
6月30日(中間配当金)
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 同連絡先 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711(通話料無料)
- 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店
- 公告方法 電子公告により行う。
(当社ホームページ <http://www.anges-mg.com/>に掲載)
ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。

【お知らせ】

- 株式に関するお手続き用紙のご請求について
株式に関するお手続き用紙(届出住所/印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、上記株主名簿管理人にてお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。
0120-244-479 (三菱UFJ信託銀行本店証券代行部)
0120-684-479 (三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部) 通話料無料
インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。(配当金振込指定書を除く)

ホームページをご覧ください。

最新のニュースリリースやIR資料などを掲載しております。ぜひご覧ください。

— ホームページアドレス —

<http://www.anges-mg.com/>



この中間報告書に関するお問い合わせ先
東京支社 03-5730-2753